

地域学校協働連携NEWS

地域連携担当教職員等南会津地区研修会

11月22日(水)、文部科学省のコミュニティ・スクール推進員の安齋宏之氏を講師にお迎えし、講演および「熟議」を実施していただきました。

講演「新しい時代のCS(コミュニティ・スクール)と地域学校協働活動の一体的推進」

CSを活用した「地域とともにある学校」づくりや、CSと地域学校協働活動の一体的推進の重要性などについて、具体的な実践をもとに講演いただきました。

保護者や地域住民との目標やビジョンの共有、そして、そこから生まれた取組は、学校の立場でも地域(保護者)の立場でもワクワクするものばかりで、CSや地域学校協働活動の可能性を強く感じました。

また、教育委員会、管理職、地域連携担当教職員、それぞれに期待することとして、役割を明確にいただきました。



- 導入するまでは、ハードルが高いと思う。メリットを考え、そうなるように進めていくことが大切。はじめの熱量をどう継続していくかが重要だと思った。【学校管理職】
- 教育目標はずっと変わらないものだと思っていましたが、数年で達成するという設定、いつも思い出せる目標、すてきだと思いました。【地域連携担当教職員】
- 学校、家庭、地域がやることを分担して、それぞれの責任で協働することが大切だと感じました。子供の教育について、家庭も巻き込み、当事者意識をもたせることが大切だと感じました。【地域連携担当教職員】
- 放課後子供教室との連携という発想はなかった。積極的に働きかけていきたい。【地域連携担当教職員】

熟議「地域学校協働活動推進上の課題と今後取り組みたいこと」

「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話のことです。

今回は、安齋氏のコーディネートのもと、参加者が実際に熟議を体験しました。どのように対話を実施していくか、具体的にイメージすることができたようでした。

熟議の流れは、課題解決のための話し合いには有効であると感じました。また、参加者に当事者意識をもってもらうという視点でもぜひ取り入れてほしい手法です。学校運営協議会だけではなく、他の協議の場や授業などでも使うことができそうです。



- 学校でも職員と行ってみたいと思います。テーマを何にしようか考えるのも楽しみです。校長の立場として、他の校長先生にも聞いてほしい内容でした。【学校管理職】
- 今は、それぞれの立場からの意見交換というところで学校運営協議会は止まっているので、協議の場で熟議の形式を取り入れていくことを検討していきたい。【地域連携担当教職員】
- 今まで考えつかないアイデアが聞けた。PTAなど他の活動でも取り入れることで保護者の学校理解にもつながると感じた。【地域連携担当教職員】
- 大きくとも小さくとも、「誰がやるのか」を明確にし、継続していくことで、様々な課題が少しずつ改善し、意識も変わるのだということがわかりました。大きな学びになりました。【地域連携担当教職員】

CSや地域学校協働活動を進めるには、管理職による効果的な運営や職員一人一人の理解など、学校の中でも様々な立場の連携協力が必要です。もちろん、行政の役割や地域の協力も重要です。

ぜひ、今回の研修を校内で広め、地域と学校の連携協働を進めていただきたいと思います。